

カトリック仙台司教区 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

9月15日から第2期に入った支援活動ですが、日本の教会として各管区(長崎管区・岩手県北部から釜石まで)(大阪管区岩手県南部大船渡から宮城県中部塩竈まで)(東京管区宮城中部仙台市から福島県全体)の支援活動もそれぞれ準備し始めています。今回はその中でも長崎管区と大阪管区の準備状況を報告致します。

長崎から25時間！

8月の末に、長崎管区から派遣されたボランティア先遣隊が大槌町に入りました。

隊長は古木真理一神父、隊員は男女合わせて信徒6名、この7名は22日の早朝、車で長崎を出発し、名神自動車道から北陸自動車道を走り、日本海沿岸を進み、富山に一泊。翌朝、富山を出発し、新潟から磐越自動車道を通って福島から東北自動車道に入り、宮城県、岩手県を通過しながら、釜石市の沿岸から北上し、やっと大槌町に到着しました。走行距離2000km、時間にして25時間の長移動での大槌入りでした。

大槌には、長崎管区先遣隊を迎えるために、仙台、気仙沼、宮古、久慈のそれぞれの司祭が駆けつけ、夕方に着いた先遣隊と共にカレーパーティーで歓迎しました。

これに先立つ約1ヶ月、釜石ベースのボランティアたちが、津波被害を受けたビジネスホテルである寿ホテルのドロカき、修繕、清掃などをして準備してきました。このホテルは、盛岡のカトリック信徒の厚意により、ボランティアベースとして活用することを望んで、提供して下さったものです。いよいよ、大槌での長崎管区の挑戦が始まります。



大槌ベースより市街地を望む

大阪管区の新ベース

大阪教会管区で運営する大船渡ベースの活動が本格始動しました。ベースとしての建物の準備は既に始まっておりましたが、今後のベースが担う役割として仙台教区内の特に被災した滞日外国人司牧のための活動もこのたび始まったのです。



滞日外国人司牧会議

大船渡ベースの専従者として、大阪教区の信徒で野田和馬さんが、10月12日に仙台入りすることになっており、築館教会に先に派遣されている池田神父様と事前協議を行い、16日から大船渡で活動を開始する予定です。そして、滞日外国人支援センターに着任するギャリー神父さんそして、ハルノコ神父さんを迎え、いよいよ本格的に始動します。



ベースをどのような建物にしようか？

フィリピンからのお客様！



ミサの中での優しい励まし！

を捧げ、その後でフィリピーナのために慰めと励ましを頂きました。司教さまの優しい言葉の一つひとつが彼女たちには何よりのプレゼントでした。

去る、9月25日26日とフィリピンから石巻にお客様がいらっしゃいました。25日はテイローナ司教さま(インファンタ教区)です。東松島、石巻の津波の爪あとを視察なさった後に、当地の司祭とともにごミサ



司教さまとフィリピーナたち



代表で挨拶する會津神父！

翌26日にはなんとアキノ大統領がいらして下さいました。これにはさすがに我々スタッフも驚きましたし、所謂、本物のVIPでした。びっくり仰天です！会場のカトリック幼稚園も大興奮！大船渡から福島までのフィリピンの方々も180名集まりました。大統領の挨拶も然ることながら、当地の會津神父と4名の被災地代表のフィリピーナの立派な挨拶には、大統領をはじめ会衆全員が感銘を受けました。

シスターズリレーの新たな一歩



出発前にサポセンでお勉強！

を4月1日から派遣し始めました。

こうして、9月末日までの5ヶ月間、各ベースで、シスターの作ってくださる食事とほほえみに、多くのボランティアが励まされ、ほっとさせられ、力を回復したのです。

ボランティアの方々を支える縁の下の力持ちの働きをして下さったシスターズリレーの働きがあったからこそ、ボランティアの方々が塩釜、石巻、米川、釜石という各ベースでの十分な働きができたのでしょう。

このシスターズリレーが10月1日から新たな形で始まります。今度は、1週間交代のこれまでのリレーの形のほか、傾聴などの長期ボランティアに従事するシスターの奉仕が期待されています。

3月11日の大震災直後から、日本女子修道会総長管区長会(全国女子修道会連盟)では、東日本大震災の被災者を支援するために、仙台教区サポートセンターを通して被災地に派遣するシスターズリレーを企画し、各修道会1週間ずつ4人~5人のシスター